

八王子市立館小中学校 令和8年度 学校経営方針 (◎重点目標 自ら考え、共に響き合う)

【校訓】笑顔 笑声

本校の校訓「笑顔笑声」に込められた思いは、「笑顔笑声」の碑の裏面に「校訓に込めた願い」として刻まれている。子供たちを「自分も相手も笑顔にし、笑い声を絶やさぬ人」に育てたい。相手とは、人間のみならず動植物も含め生きとし生けるもの全てである。

自分の周りがいつも笑顔と笑い声で包まれるためには、常に自分自身を高め、思いやりのある関係づくりへの努力が必要である。その基盤を本校9年間の義務教育で育成し、卒業後もこの願いを大切に人生を歩むことを期待する。

≪小学部の教育目標≫

- ◎考える子 ○明るい子
- やさしい子 ○はたらく子

≪小中一貫教育目標≫

- ◎高める自己 ○かがやく笑顔 ◎あふれる元気
- スローガン 『好きです、館小中』
- 連綿と受け継がれてきた校史をリスペクトし、持続可能な教育活動へ

≪中学部の教育目標≫

- ◎主体的に生きる生徒
- ◎心豊かに生きる生徒
- ◎遅しく生きる生徒

【経営理念】

館に集う全ての生命と人権の尊重

小中一貫教育全体構想のめざす「よく考え、すすんで学習し、自己を高め続ける児童・生徒」に必要な資質・能力を育成するために、小中一貫カリキュラムを活用した見通しのある9年間の義務教育の創造を通して、校訓「笑顔笑声」を具現化した一貫校と地域づくりをめざす。また、地域運営学校として地域や保護者の願いを踏まえ、これからの変革が大きい社会を主体的に生きるための資質・能力を育むために、人権尊重の精神を基盤に、自主・自律を図りながら心身共に健やかな人間を育成することをめざして、教育目標を定める。

目指す児童・生徒像 ◎主体的に学ぶ児童・生徒 ○他人を大切に作る児童・生徒 ○心身ともに健全な児童・生徒 ○地域に貢献する児童・生徒

目指す学校像 ◎9年間で育てる学校 ○自己有用感が高まる学校 ○居心地がよい学校 ○信頼される学校

目指す教師像 ○学ぶ意欲に火をつける教師 ○潜在能力を引き出す教師 ◎自ら学び続ける教師 ○公立学校の使命を自覚する教師

中期的目標と方策 義務教育9年間を見通して、発達の段階に即したねらいを設定した重点的な指導を展開する。

第Ⅰ期 (小学校前・中期、小1～小4)
基礎基本を繰り返して習熟を図る。中学年から教科担任制を導入し小中の円滑な接続を図る。

第Ⅱ期 (小学校後期・中学校前期、小5～中1)
基礎基本を活かして思考力・判断力・表現力を身に付ける。義務教育学校化へ向けて。

第Ⅲ期 (中学校後期、中2～中3)
基礎基本を応用して活用し、適性・能力を伸ばす。

義務教育修了

心身とも健康で、自ら考え行動できる、社会性・人間性豊かな児童・生徒へ。「15歳の春へ」

(1)【学校経営】

- ①生命・人権の尊重 ◎命の大切さ
全教育活動を通して発達段階に即した生命・人権尊重の教育を推進する。
・人権感覚の錬磨 ・人権教育の推進 ・多様性理解
- ②小中一貫教育 ◎高学年～中1
義務教育学校化を見据え、校訓、教育目標の具現化を目指して、教育課程、行事、生活指導等の一体的運営により9年間の切れ目のない教育活動を推進する。
- ③小学部教科担任制 ○中学年(一部)へ拡大導入
高学年及び中学年における指導体制の転換を図り、本校の実態に応じた教科担任制の在り方を実践する。
- ④教師の資質能力の向上 ○積極的な研修参加
「全国教員研修プラットフォーム(Plant)」を活用し、職層や課題に応じた研修を計画的に受講する。
- ⑤公務員の自覚 ◎サービスの厳正と当事者意識の向上
交通事故防止、体罰防止、個人情報管理等に関する研修を通して当事者意識を高め、サービスの厳正に努める。
- ⑥小規模化対策 ○行事の継続的な見直し
義務教育学校化を見据え、現行実施の行事内容を継続的に見直し、持続可能で魅力的な教育活動の在り方を検討する。受け継がれてきた理想をリスペクトしつつ、新たな館小中学校の魅力を積極的に発信する。

(2)【学習指導】

- ①基礎基本の徹底定着 ◎はちおうじっ子ミニマム
「はちおうじっ子ミニマム」を積極的に活用し、社会生活を営む上で最低限習得すべき基礎的・基本的学習内容の確実な定着を図る。
- ②授業のユニバーサルデザイン化 ◎見・聞・解見やすい・聞きやすい・解りやすい指導体制を構築するために、「めあて」「本時の流れ」「振り返り」の提示、チョークの色、板書の構造化を工夫する。
- ③協働的な学びの推進 ○児童・生徒の主体的な学び
主体的に学び合う協働的学習への転換を図り、相互作用を重視した授業改善を進める。
- ④適正で信頼される評価 ◎評価の観点の明確化
適正な評価材料の明確化し、指導と評価の一体化を進める。信頼される評価・評定の研修を実施。
- ⑤学習用端末の活用 ◎責任ある行動規範の育成
発達段階に応じて学校や家庭で日常のかつ効果的に活用し目的に応じた情報活用能力や情報技術利用に関する適切で責任ある行動規範を育成する。
- ⑥考える、議論する道徳の推進 ○外部講師活用
道徳的価値を自分との関わりの中で考え、多様な考え方や感じ方に触れる授業を推進する。ローテーション授業の導入及び外部講師を活用する。

(3)【生活指導・進路指導】

- ①年間生活目標「あいさつ励行」 ○主体的取組
校訓「笑顔笑声」の具現化に向け、年間生活目標として「あいさつ励行」を掲げて取り組む。
- ②不登校対策 ◎つながるプラン
「個票システム」の活用、不登校生徒の早期把握、セミオーダーメイド型の支援体制、居心地の良い空間づくり、外部連携を進める。
- ③いじめ防止の徹底 ○情報共有と未然防止
グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングにより、良好な人間関係の構築及び居場所のある学級づくりを推進し、思いやりや寛容の心を育成する。
- ④特別支援の充実 ◎インクルーシブ教育
通常の学級における特別支援教室巡回指導員の授業を実施し、発達障害についての理解を深め、良好な人間関係を構築する力の育成を図る。
- ⑤安全教育の徹底 ○事故防止・危機管理
児童・生徒自ら主体的に判断し行動できる力を育成する。事故の未然防止、安全指導の徹底を図る。
- ⑥キャリア教育 ◎責任と自己実現
体験活動等を通して集団の中で役割を果たす力と自らの生き方を主体的に考える態度を養う。

(4)【特別活動他】

- ①学校行事 ◎小中合同一体化
小中合同の体験的な活動を通して集団への所属感や連帯感を深める。新たに「館フェスティバル」を地域と合同実施する。
- ②異年齢交流の推進 ○保幼小中の発達段階理解
異年齢交流を通して、社会性及び自己有用感の向上を図る。保幼小中の連携を強化し発達段階の理解を深め円滑な接続を図る。
- ③部活動改革の推進 ◎令和9年度へ向けて
令和9年度の地域移行完全実施に向けた準備を進める。本校の実態に応じ、持続可能な部活動運営と地域連携の融合を図る。
- ④児童会・生徒会活動の充実 ○いじめ防止
児童会・生徒会の連携を推進し「はちおうじっ子サミット」を活用した主体的ないじめ防止活動を促進する。
- ⑤ボランティア活動の推進 ○自己有用感
地域奉仕活動を土曜授業化し全校で参加。地域の一員としての自己有用感を高める。
- ⑥家庭・地域との連携強化 ○周知・説明
学校運営協議会の熟議を経た学校経営を推進する。教育活動の周知・説明、連携を強化。

サービスの厳守 (本年度の重点項目)

- ①児童・生徒性暴力等の根絶
- ②体罰、不適切な指導、暴言等の防止
- ③交通事故防止の徹底
- ④通勤の適正化の徹底
- ⑤個人情報の適切な管理

